

## 9 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

### ● POWER LED は点灯していますか？

POWER LED が点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

### ● 電源をオフにした後、すぐにオンにしていますか？

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

### ● LINK/ACT LED は点灯していますか？

LINK/ACT LED は接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

- 接続先機器に電源が入っていることを確認してください。
- 正しいUTPケーブルが断線なく正しく接続され、障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。
- UTPケーブルに問題がないか確認してください。

ケーブルの不良は外観からは判断しにくいため、他のケーブルに交換して試してみてください。
- ケーブルの長さが制限を越えていないことを確認してください。

2つのネットワーク機器の直接リンクを形成するUTPケーブルは最大 100mと規定されています。
- ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。

特定のポートが故障している可能性もあります。

- カスケード切替スイッチを確認してください。本製品のカスケードポート（ポート24）を使用して、リピーターやスイッチとカスケード接続する場合は、本製品のカスケード切替スイッチを「= HUB」（MDI）に設定してください。

- 通信モードの設定を確認してください。接続先の機器がオートネゴシエーションをサポートしていない場合は、通信モード設定スイッチ（ポート切替ボタン / ステータス切替ボタン）を使用して、本製品の通信モードを手動で設定してください。

### ● HUB の接続段数は正しいですか？

リピーター（= HUB）の数が制限を越えていないか確認してください。

- イーサネット（10Mbps）の場合、カスケードできるリピーターの台数は、最大4台までとされています。
- ファーストイーサネット（100Mbps）の場合、クラスIIのリピーターは、1つのコリジョンドメイン内で2台までをカスケード接続することができます。その場合、リピーター間のケーブルの長さは5m以内としてください。クラスIのリピーターはカスケード接続することができません。

## 10 製品仕様

準拠規格	
	IEEE802.3 10BASE-T IEEE802.3u 100BASE-TX IEEE802.3x Flow Control
適合規格	
安全規格	UL1950 CSA-C22.2 No.950
EMI 規格	VCCIクラスA
電源部	
定格入力電圧	AC100-240V
入力電圧範囲	AC 90-255V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	0.5A
最大入力電流（実測値）	0.3A
平均消費電力	13W（最大 13W）
平均発熱量	46kJ/h（最大 46kJ/h）

環境条件	
動作時温度	0～40℃
動作時湿度	80%以下（結露なきこと）
保管時温度	-20～60℃
保管時湿度	95%以下（結露なきこと）
外形寸法（突起部含まず）	
	432(W) x127(D) x 44(H) mm
質量	
	1.7kg
スイッチング方式	
	ストア&フォワード
MAC アドレス登録数	
	4K（最大）
MAC アドレス保持時間	
	300秒
メモリー容量	
パケットバッファ容量	768KByte（256KByte X 3Chip）

## 11 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご使用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

**アライドテレシス株式会社 修理受付窓口**  
☎0120-860332

携帯電話 / PHS からは：045-476-6218  
月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00  
13:00～17:00

### ● 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましても、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

## 12 ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

**アライドテレシス株式会社 サポートセンター**  
http://www.allied-tele-sis.co.jp/support/info/  
☎0120-860772

携帯電話 / PHS からは：045-476-6203  
月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00  
13:00～18:00

## 13 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

### ● 一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいてもかまいません。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

### ● 製品について

製品名、製品のシリアル番号（S/N）、製品リビジョンコード（Rev）などのハードウェア情報をお知らせください。

製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に貼付されているシリアル番号シールに記入されています。

 S/N 0047744990805087 Rev A1
--

シリアル番号シール（例）

### ● 設定や LED の点灯状態について

- LED の点灯状態をお知らせください。

### ● お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）お知らせください。

### ● ネットワーク構成図について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

## 14 ご注意

- 本書に関する著作権などの知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

- 弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますご了承ください。

- 弊社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますご了承ください。

©2005 アライドテレシスホールディングス株式会社

## 15 商標について

CentreCOM は、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

## 16 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

## 17 廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

## 18 日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

☎0120-860442  
月～金（祝・祭日を除く） 9:00～17:30

## 19 マニュアルバージョン

2001年 1月 Rev.A 初版  
2001年 2月 Rev.B 第2版  
2001年 4月 Rev.C 第3版 誤記訂正  
2005年 12月 Rev.D 第4版 表記訂正

 J613-M6830-00 Rev.D 051216
---

ファーストイーサネット・スイッチ

# CentreCOM<sup>®</sup> FS724TX V1 ユーザーマニュアル

この度は、CentreCOM FS724TX V1をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本製品は、10BASE-T/100BASE-TX ポートを24ポート装備したファーストイーサネット・スイッチです。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後も大切に保管してください。

## 1 特長

- 約4000個のMACアドレステーブルをサポート
- オートネゴシエーション機能をサポート
- ブッシュスイッチにより、ポートごとに AUTO/100M FULL/100M HALF/10M FULL/10M HALF の手動設定が可能
- ディップスイッチにより、フローコントロール（Half Duplex 時=バックプレッシャー機能、Full Duplex 時= IEEE 802.3x PAUSE）の ON/OFF が設定可能
- ブッシュスイッチにより切替可能なカスケードポートを装備
- 信頼性の高いストア&フォワードのスイッチングモード
- AC電源を内蔵
- ポートごとの通信状況が一目でわかる LED を装備

### オプション（別売）

- 壁設置用ブラケット AT-BRKT-J22 により、壁面への設置が可能

- マグネット Kit XS により、スチール製の壁面への設置が可能

## 2 アイコンの説明

アイコン	意味	説明
	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
	注意	物的損害や使用者が傷を負うことが想定される内容を示しています。
	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

## 3 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認して、次のものが入っているかを確認してください。

- CentreCOM FS724TX V1 本体（1台）
- 電源ケーブル\*（1本）
- 19 インチラックマウントキット（36C1）（ブラケット2個、ブラケット用ネジ4個）
- 製品保証書（1枚）
- シリアル番号シール（2枚）



# 安全のために

必ずお守りください

 **警告** 下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

**分解や改造をしない**  
本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。

**雷のときはケーブル類・機器類にさわらない**  
感電の原因となります。

**異物はいれない 水は禁物**  
火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

**通風口はふさがらない**  
内部に熱がこもり、火災の原因となります。

**湿気やほこりの多いところ 油煙や湯気のある場所には置かない**  
火災や感電の原因となります。

**表示以外の電圧では使用しない**  
火災や感電の原因となります。本製品は AC100-240V で動作します。なお、本製品に付属の電源ケーブルは100V用ですのでご注意ください。

**正しい電源ケーブル・コンセントを使用する**  
不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。

**コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない**  
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。

**設置・移動のときは電源プラグを抜く**  
感電の原因となります。

**電源ケーブルを傷つけない。**  
火災や感電の原因となります。  
電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- 加工しない、傷つけない。
- 重いものを載せない。
- 熱器具に近づけない、加熱しない。
- 電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

**ご使用にあたってのお願い**  
次のような場所での使用や保管はしないでください

- 直射日光の当たる場所
- 暖房器具の近くなどの高温になる場所
- 急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- 振動の激しい場所
- ほこりの多い場所や、ジュタンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- 腐食性ガスの発生する場所

- ユーザーマニュアル（本書）

- 製品仕様書（英文）

- \* 同梱の電源ケーブルは本製品専用です。他の電気機器では使用できませんので、ご注意ください。
- \* 同梱の電源ケーブルは AC100V 用です。AC200V でご使用の場合は、設置業者にご相談ください。

また、本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。

再梱包のために、本装置が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管しておいてください。

## 4 各部の名称と機能

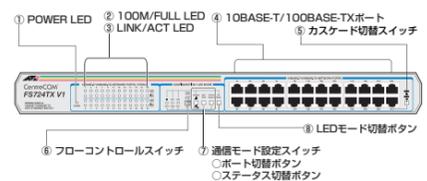


図1 外観図（前面）



図2 外観図（背面）

**静電気注意**  
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

**取り扱いはいけない**  
落したり、ぶつかけたり、強いショックを与えないでください。

**お手入れについて**  
清掃するときは電源を切った状態で誤動作の原因になります。

**機器は、乾いた柔らかい布で拭く**  
汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

**お手入れには次のものは使わないでください**  
石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）

**シンナー類 不可**

① **POWER LED (緑)**  
本体に正常に電源が供給されているときに点灯します。

② **100M/FULL LED (緑)**  
**LEDモード切替ボタン**で「SPEED」に設定している場合はポートの通信速度 (10M/100M)、「DUPLEX」に設定している場合はポートの通信モード (HALF/FULL) を表示します。

**100M**  
ポートが「AUTO」に設定されている場合は、100Mbps で動作しているときに点灯します。ポートを「100M」固定に設定した場合は、LINKのON/OFFにかかわらず点灯します。

**FULL**  
ポートが「AUTO」に設定されている場合は、Full Duplex で動作しているときに点灯します。ポートを「FULL」固定に設定した場合は、LINKのON/OFFにかかわらず点灯します。

**注意** 通信モード設定スイッチが「CONFIG」(スイッチが押し込まれた状態)のときは、ポート切替スイッチによって選択されているポートが点滅します。

③ **LINK/ACT LED (緑)**  
ポートと接続先の機器がリンクしたときに点灯します。また、ポートがパケットを受受信しているときに点滅します。

④ **10BASE-T/100BASE-TXポート**  
10BASE-T/100BASE-TXのUTPケーブルを接続するためのコネクタです。ポート24は、カスケード切替スイッチによって、カスケード接続用ポートとして使用するか、通常の10BASE-T/100BASE-TXポートとして使用するかを設定することができます。

⑤ **カスケード切替スイッチ**  
カスケードポート (ポート24) を、カスケード接続用ポートとして使用するか、通常の10BASE-T/100BASE-TXポートとして使用するかを設定するためのスイッチです。

= **HUB** (スイッチが押し込まれた状態)  
カスケード接続をするときのカスケードポート (MDI) として使用します。

**X PC** (スイッチが飛び出している状態)  
通常の10BASE-T/100BASE-TXポート (MDI-X) として使用します。

⑥ **フローコントロールスイッチ**  
フローコントロールON/OFFを設定するためのスイッチです。フローコントロールとは、スイッチ内部において受信側の転送速度が送信側の転送速度よりも遅い場合や、受信パケットが特定のポートに集中する場合に、パッファオーバーフローによってパケットロスが生じることを未然に防ぐための機能です。Half Duplex時のフローコントロール (バックプレッシャー) ON/OFFを設定する「H」(左側)と、Full Duplex時のフローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE)ON/OFFを設定する「F」(右側)の2つのスイッチがあります。出荷時設定はどちらも「OFF」(上側)です。

**H (左側)**  
Half Duplex時のフローコントロール (バックプレッシャー機能) ON/OFFを設定します。「ON」(下側)にすると、フローコントロールがONになります。常にパッファメモリを監視し、空きが減少してくると、送信側のポートに対してジャム信号を送出します。「OFF」(上側)にすると、フローコントロールがOFFになります。

**F (右側)**  
Full Duplex時のフローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE)ON/OFFを設定します。「ON」(下側)にすると、フローコントロールがONになります。常にパッファメモリを監視し、空きが減少してくると、送信側のポートに対してPauseパケットを送出します。「OFF」(上側)にすると、フローコントロールがOFFになります。

**注意** Full Duplex時のフローコントロールは、本製品の通信モードがAUTO (オートネゴシエーション) で、かつ接続先の機器もフローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE)をサポートしている場合に機能します。

⑦ **通信モード設定スイッチ**  
ポートの通信モード (AUTO/100M FULL/100M HALF/10M FULL/10M HALF) を設定するためのスイッチです。出荷時設定は「NORMAL」(スイッチが飛び出している状態) です。(通信モードの出荷時設定は全ポート「AUTO」です。)

**NORMAL** (スイッチが飛び出している状態)  
ポートの通信モードが設定されていて、その通信モードで通信ができる状態です。この状態のときに**LEDモード切替ボタン**を使用して、100M/FULL LEDの表示内容を切り替えることができます。

**CONFIG** (スイッチが押し込まれた状態)  
ポートの通信モードを設定するための状態です。この状態のときに**ポート切替ボタン**と**ステータス切替ボタン**を使用して、各ポートごとに通信モードを設定することができます。

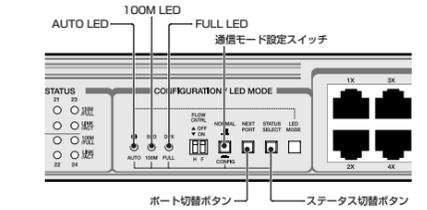


図3 ポート切替ボタン/ステータス切替ボタン(拡大図)

- **ポート切替ボタン**  
ポートを選択するためのボタンです。**通信モード設定スイッチ**を「CONFIG」に設定すると、ポート1が選択されます。ボタンを押すごとに、選択されるポートが次のポートへと移動します。最終ポート (ポート24) まで移動すると、再びポート1へ戻ります。選択されているポートは、100M/FULL LEDの点滅によって表示されます。
- **ステータス切替ボタン**  
通信モードのステータスを選択するためのボタンです。出荷時設定は全ポート「AUTO」(オートネゴシエーション) が選択されていて、ボタンを押すごとにステータスが切り替わります。選択されているステータスは、AUTO/100M/FULL LED (緑) の点灯によって表示されます。ステータスの設定は、**ポート切替ボタン**で次のポートへ移動することによって有効となります。

ステータス切替ボタン	ステータス	LED表示
①	AUTO	AUTO 100M FULL
②	100M FULL	AUTO 100M FULL
③	100M HALF	AUTO 100M FULL
④	10M FULL	AUTO 100M FULL
⑤	10M HALF	AUTO 100M FULL

表1 ステータスとLED表示の切り替わり

**注意** 通信モード設定スイッチが「NORMAL」のときに、**ポート切替ボタン**と**ステータス切替ボタン**を同時に2秒以上押し、通信モードの設定が出荷時設定 (全ポート「AUTO」) に戻ります。

**注意** 通信モード設定スイッチ (ポート切替スイッチ/ステータス切替スイッチ) を使用して手動で通信モードを設定すると、電源を入れなおした場合も、最終設定で起動します。

⑧ **LEDモード切替ボタン**  
**100M/FULL LED**で通信速度 (10M/100M) を表示させるか、通信モード (HALF/FULL) を表示させるかを設定するためのスイッチです。ボタンを押すごとにLEDモードが切り替わり、どちらを選択しているかは、SPEED/DUPLEX LEDの点灯によって表示されます。出荷時設定は「SPEED」です。

**注意** LEDモードの切り替えは、**通信モード設定スイッチ**が「NORMAL」(スイッチが飛び出している状態) のときに行ってください。

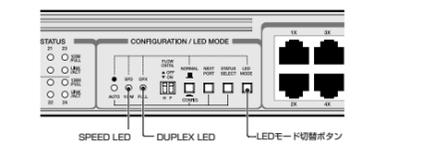


図4 LEDモード切替ボタン (拡大図)

**SPEED LED (緑)**  
このLEDが点灯している場合は、100M/FULL LEDが通信速度 (10M/100M) を表示しています。

**DUPLEX LED (緑)**  
このLEDが点灯している場合は、100M/FULL LEDが通信モード (HALF/FULL) を表示しています。

⑨ **電源コネクタ**  
電源ケーブルを接続するためのコネクタです。

## 5 設置

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。

### 設置準備

● **接続ケーブルを用意する**  
すべてのケーブルが機器間を接続するために適切な長さであることを確認します。

	種類	最長距離
10BASE-T	UTPケーブル (カテゴリ-3以上*)	100m
100BASE-TX	UTPケーブル (カテゴリ-5以上*)	100m

\* 弊社シールド付エンハンスト・カテゴリ-5 ストレートケーブルもご使用になれます。

● **設置するときの注意**  
本製品の設置については、以下にご注意ください。

- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
- 本体の上にものを置かないでください。
- テレビ、ラジオ、または無線機などのそばに設置しないでください。
- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- コネクタの端子にはさわらないでください。(静電気を帯びた手 (体) でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。)
- 19 インチラックに取り付けるときには、同梱のブラケットを使用してください。
- 充分な換気ができるように、本体側面をふさがないように設置してください。

### 設置

本製品は、デスクトップなど平らなところ、19 インチラック、または壁面に取り付けて使用できます。

● **平らなところに設置する**  
本製品は、ゴム足を取り付けた状態で出荷されますので、そのままデスクの上などの平らな所に設置して使用できます。

● **19 インチラックに取り付ける**  
本製品は、同梱の専用 19 インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19 インチラックに取り付けることができます。

1. **電源ケーブルや各メディアのケーブルははずす**
2. **ゴム足が取り付けられている場合は、ゴム足を取りはずす**
3. **本体にブラケットを取り付ける**

同梱の19 インチラック取り付け用のブラケットを付属のネジを用いて、本体の両側にしっかりと固定してください。

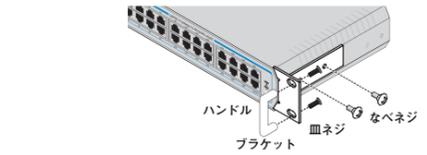


図5 ブラケットの取り付け

4. **19 インチラックに取り付ける**  
19 インチラックの任意の位置に本体を合わせ、適切なネジ (別途ご用意ください) でしっかりと固定してください。

### オプション (別売) を利用した設置

本製品は、オプション (別売) を使用することにより、壁面に取り付けることができます。

本製品は壁面に取り付ける場合には、壁設置ブラケット AT-BRKT-J22 を利用します。また、スチール製の壁面の場合には、マグネット Kit XS を使用します。

取り付けに関しては、オプション付属の取扱説明書をご参照ください。また、設置方向に関しては、弊社 Web ページにてご確認ください。

http://www.allied-teleis.co.jp/

\* AT-BRKT-J22 をご使用される場合、本製品は4個組の金具のうち、2個だけを製品下辺に使用してください。4個全部を使用すると放熱が妨げられる恐れがあります。

## 6 接続

### UTPケーブルの接続

1. **本製品にUTPケーブルを接続する**  
本体のポートにUTPケーブルを接続してください。

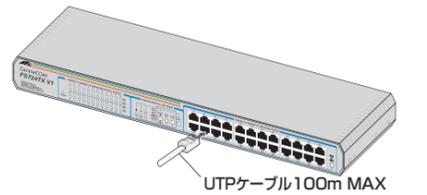


図6 UTPケーブルの接続

2. **UTPケーブルのもう一方を端末と接続する**  
UTPケーブルのもう一方をネットワークに接続する端末に接続してください。

### 電源ケーブルの接続 (本製品の起動)

本製品は、電源ケーブルを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

**警告** 不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

**注意** 本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で電源が入りますので、ご注意ください。

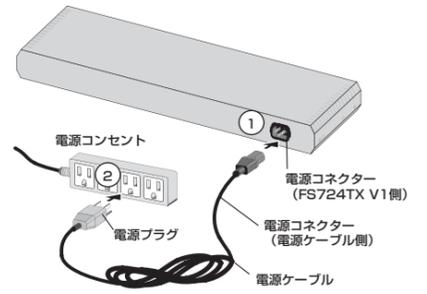


図7 電源ケーブルの接続

1. **本体側の電源コネクタを接続する**  
図7の①をご覧ください。

2. **電源プラグを電源コンセントに接続する**  
図7の②をご覧ください。

このとき、本体前面のPOWER LED (緑) が点灯することを確認してください。UTPケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、接続したポートのLINK/ACT LED (緑) が点灯します。

● **本製品の停止**  
本製品を停止するには、電源コンセント側のプラグを抜いてください。

**警告** 電源プラグを電源コンセントに差し込んだまま、本体背面に接続した電源コネクタを抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

**ヒント** 電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

## 7 構成

### スタンドアローン

本製品は単純なスタンドアローンの環境で使用できます。本製品と端末間のUTPケーブルの長さは100m以内にしてください。

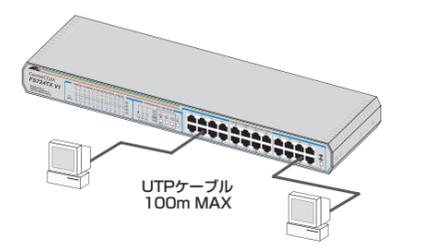


図8 スタンドアローンの接続例

### カスケード接続

カスケードポート (ポート24) を使用すると、ケーブルをクロスタイプに変更することなく、簡単にカスケード接続を行うことができます。本体前面のカスケードポート (ポート24) にUTPケーブル (ストレートタイプ) を接続し、UTPケーブルのもう一方の端を、接続先の機器の通常の10BASE-T/100BASE-TXポートに接続します。

**ヒント** ・スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

・カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

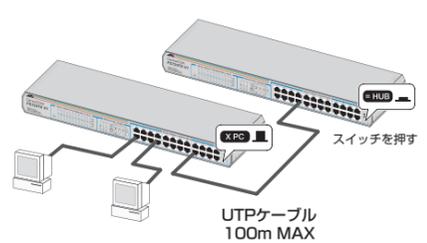


図9 カスケード接続の例

## 8 設定

### 通信速度 / 通信モードの設定

● **通信モードの設定**  
ポートの通信モード (AUTO/100M FULL/100M HALF/10M FULL/10M HALF) は、接続先の機器を確認して、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

		FS724TX V1				
		10M HALF	10M FULL	100M HALF	100M FULL	AUTO
接続先ポート	10M Half	○	—	—	—	○
	10M Full	—	○	—	—	—
	100M Half	—	—	○	—	○
	100M Full	—	—	—	○	—
	AUTO	○	—	○	—	○

表2 通信モードの組み合わせ

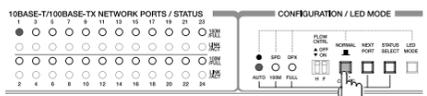
● **通信モードの設定手順**  
接続先の機器がオートネゴシエーションをサポートしていない場合、本製品の通信モードが「AUTO」に設定されていると、「10M FULL」および「100M FULL」での接続ができなくなります。

この場合は、**通信モード設定スイッチ (ポート切替ボタン/ステータス切替ボタン)** を使用して、本製品の通信モードをポートごとに手動で設定します。

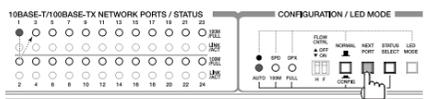
ここでは例として、ポート3を出荷時設定から「10M FULL」に設定する方法を説明します。

1. **通信モード設定スイッチ**を「CONFIG」(スイッチが押し込まれた状態) に設定します。  
ポート1が選択され、通信モードの設定はAUTOとなっています。

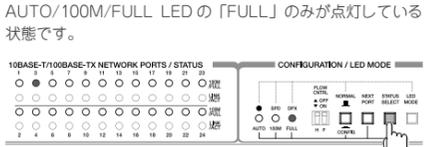
AUTO/100M/FULL LEDの「AUTO」のみが点灯し、100M/FULL LEDの「1」が点滅している状態です。



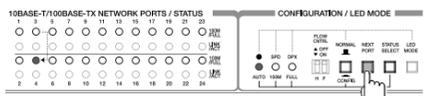
2. **ポート切替ボタン**を使用して、ポートを選択します。  
ポート切替ボタンを2回押し、ポート3のところまで移動してください。  
100M/FULL LEDの「3」が点滅している状態です。



3. **ステータス切替ボタン**を使用して、通信モードのステータスを選択します。  
ステータス切替ボタンを3回押し、10M FULLに切り替えます。  
AUTO/100M/FULL LEDの「FULL」のみが点灯している状態です。



4. **ポート切替ボタン**を使用して、ポート4へ移動します。  
ポート4へ移動することによって、ポート3のステータス設定が有効となります。



5. **通信モード設定スイッチ**を「NORMAL」(スイッチが飛び出している状態) に戻します。以上で「ポート3」を「10M FULL」に設定するための手順が終了しました。